

大正圖案

第二輯

佛敎藝術院發行



始



大正圖案第二輯内容目次

第一圖 鬼あざみ (原色版)



京都市船場御所町西入
水上雪郎氏

一 應用の品種 文、襷
一 着色の説明 異色の光線色彩
一 製作の動機 春陽の長崎錦として適當なる新しき行き方を案じたり。
一 表現の氣分 赤土版に夜の日光を受けたる氣分を現はし、とげとげしいあざみに、やさしき露草を配し幽幻的に構圖したり。

第二圖 匂ふ垣根 (原色版)



京都市五辻通大宮西入
高田彌洲氏

一 應用の品種 帯地、織物
一 着色の説明 上院の縁屏を地紋の卯の花で消して地紋と上院との調和を出して見ました。
一 製作の動機 匂ふ垣根に山ほととぎすといふ歌から思ひ付いたもの。
一 表現の氣分 先の歌の氣分を表現せんとしたるもの。

第三圖 微風 (増補版)



京都市東山橋松原下ル東入
中野玉雲氏

一 應用の品種 襷、襷
一 着色の説明 地は海國の雲霞色
一 製作の動機 本所倉庫の一室より
一 表現の氣分 雲霞に新緑に
加工の希望 雲霞に新緑に

第四圖 のか (増補版)



京都市小川三條下ル
福田松雲氏

一 應用の品種 襷、襷
一 着色の説明 緑く襷にして春の氣分を表現せんとした。
一 製作の動機 御室のつじが大變いゝと思つたので描いて見たもの。
一 表現の氣分 のどかな氣分。
一 加工の注意 ペラの白のつじを出す様に注意して貰ひたい。
一 つじばかりで襷襷をやつたものが少ないのでやつて見ました。

第五圖 妹背山に國姓爺餅 (増補版)



京都市西園院通高辻上ル
大八本壽藏氏

一 應用の品種 遊廓、大向き
一 着色の説明 國姓爺を顔に表はし妹背山のおみわを描いて、少しく緑の混つた緑の華かな色の調和を出して見た。
一 製作の動機 近松門左衛門が妹背山を作つて入獄、獄中國姓爺を作つて赦免されたので、それに因んで、妹背山の浮城の文句を入れて近松を記念せん爲めに描いたもの。
一 表現の氣分 近松門左衛門一生の嬉しい時と悲しい時とを一掃に表はした。

第六圖 曉山雲 (増補版)



京都市寺町今出川西入二丁目上ル
田畑清江氏

一 應用の品種 襷、襷
一 着色の説明 霜枯れの野として主に茶仕上げとす。
一 製作の動機 動機に依つて(但し平和紀念東京博覧會出品の洋畫妙高山より)
一 表現の氣分 清らかな高原の曉雲を破つて現はれる美しい高山のすがすがしい氣分。

第七圖 世々の薫 (増補版)



京都市大宮通寺ノ内下西入内方
長承不屈氏

一 應用の品種 織染、伴用
一 着色の説明 白、白金、水晶、赤いビ、メノオ、緑はエメラルドの如く金麗玉石目織等特有の色澤を配合調和せしめんとす。
一 製作の動機 東西西洋のモザイク及是に類する物を調和せしめんとせしに起る。
一 表現の氣分 モザイクの組合せ特有の古拙的雅趣を現はせんとす。
一 加工の希望 右の各項の意志を實物粘付等の方法に依らず織染にて表現する様製作せられたし。

第八圖 舞人のあと (増補版)



京都市高小路通御所下ル
小川純一氏

一 應用の品種 染又は織
一 着色の説明 大體暗びた茶と緑に黄の布目を出して見ました。
一 製作の動機 先年支那觀察中、新張地方の壁畫より感じたるもの。
一 表現の氣分 純潔にして麗上品なる古典的氣分。

第九圖 更紗 (増補版)



京都市橋本町日野西入
高橋白鳳氏

一 應用の品種 羽二重、友印、及帯
一 着色の説明 薄茶色地に襷襷は錆びた白茶、全体は淡き氣分。
一 製作の動機 南米の原産襷襷を印度更紗化せんとせしに起る。
一 表現の氣分 活潑的に面白く取扱つたもの。

第十圖 もみじする頃 (増補版)



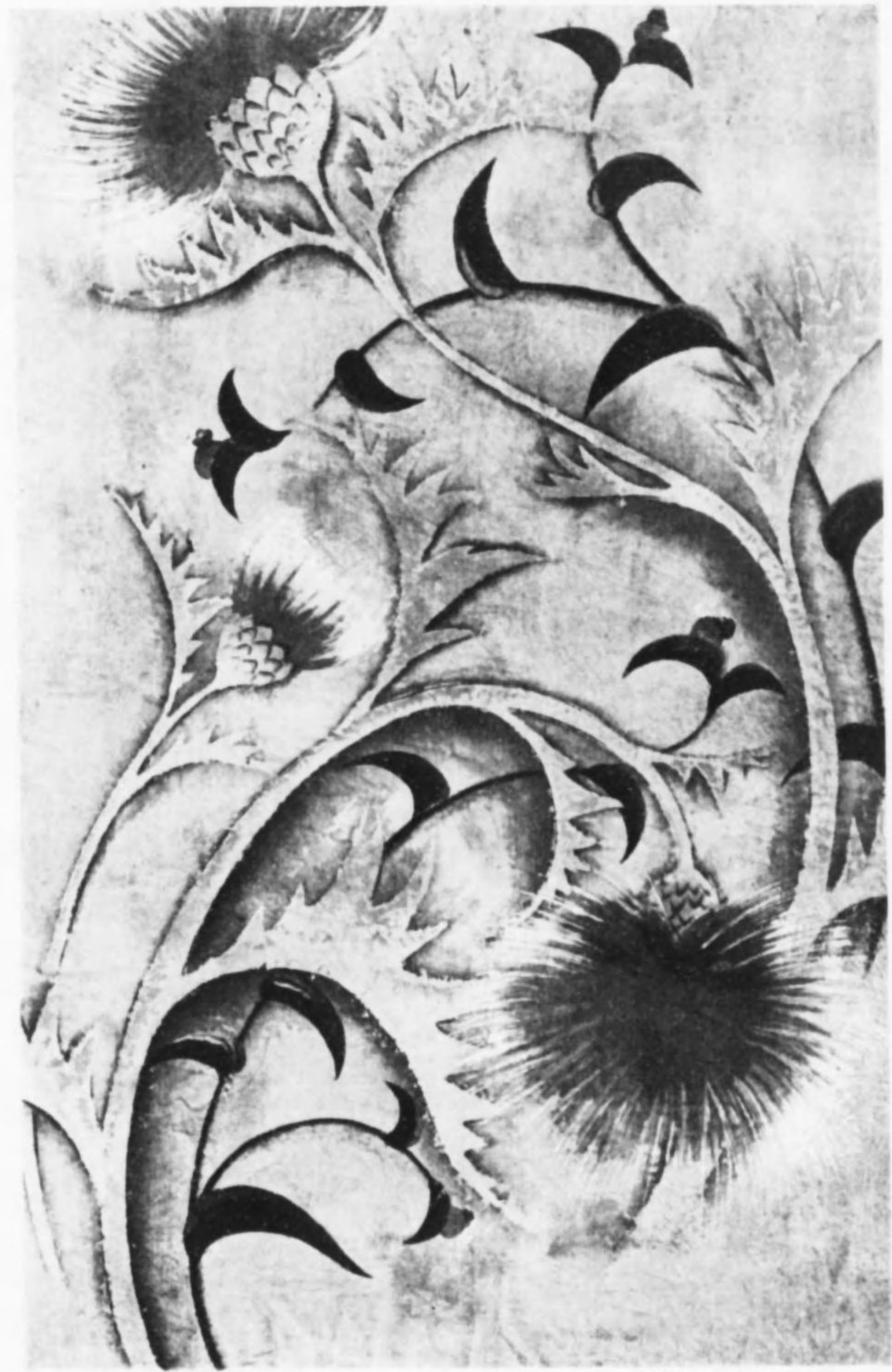
京都市東山橋通五條上ル
市川紅風氏

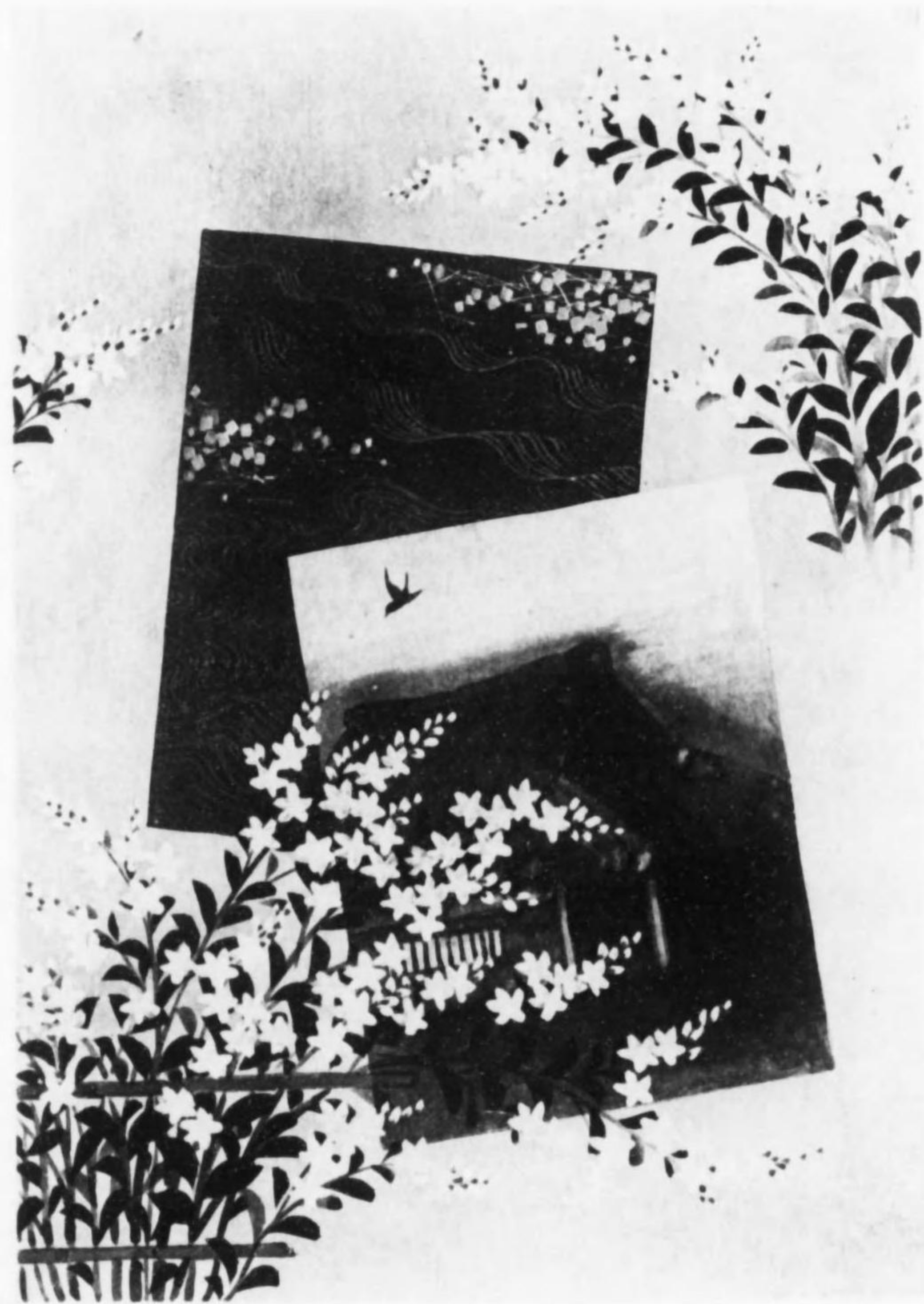
一 應用の品種 染又は織
一 着色の説明 全体の色調は秋を想はせるに適當な緑い色を以て表はした、即ち紅葉色、橙黄色、黄、白、等。
一 製作の動機 四季の中で最もすがすがしい今日此の頃掛けて千草の紅葉する秋の野山を遊覧せしに感ぜられ描かしく感じ、秋意を描くのもどかしいので簡單に秋の感じを表はして見たかつた。
一 表現の氣分 動機が既に秋の色から出たのであるから、何物にも描はれず、只香秋の色を出せばそれでよい。
一 加工の希望 充分な事をいへば全部制稿にして見たい。光のある美しい糸で出来上つたら作者の満足である。

大正圖案作品募集

種類 隨意
入選 毎回三點 (入選外の作品は切後一週間内に返納す)
賞切 本院出版物引換書譜券拾圓を呈す
充分自信ある作品を応募ありたし

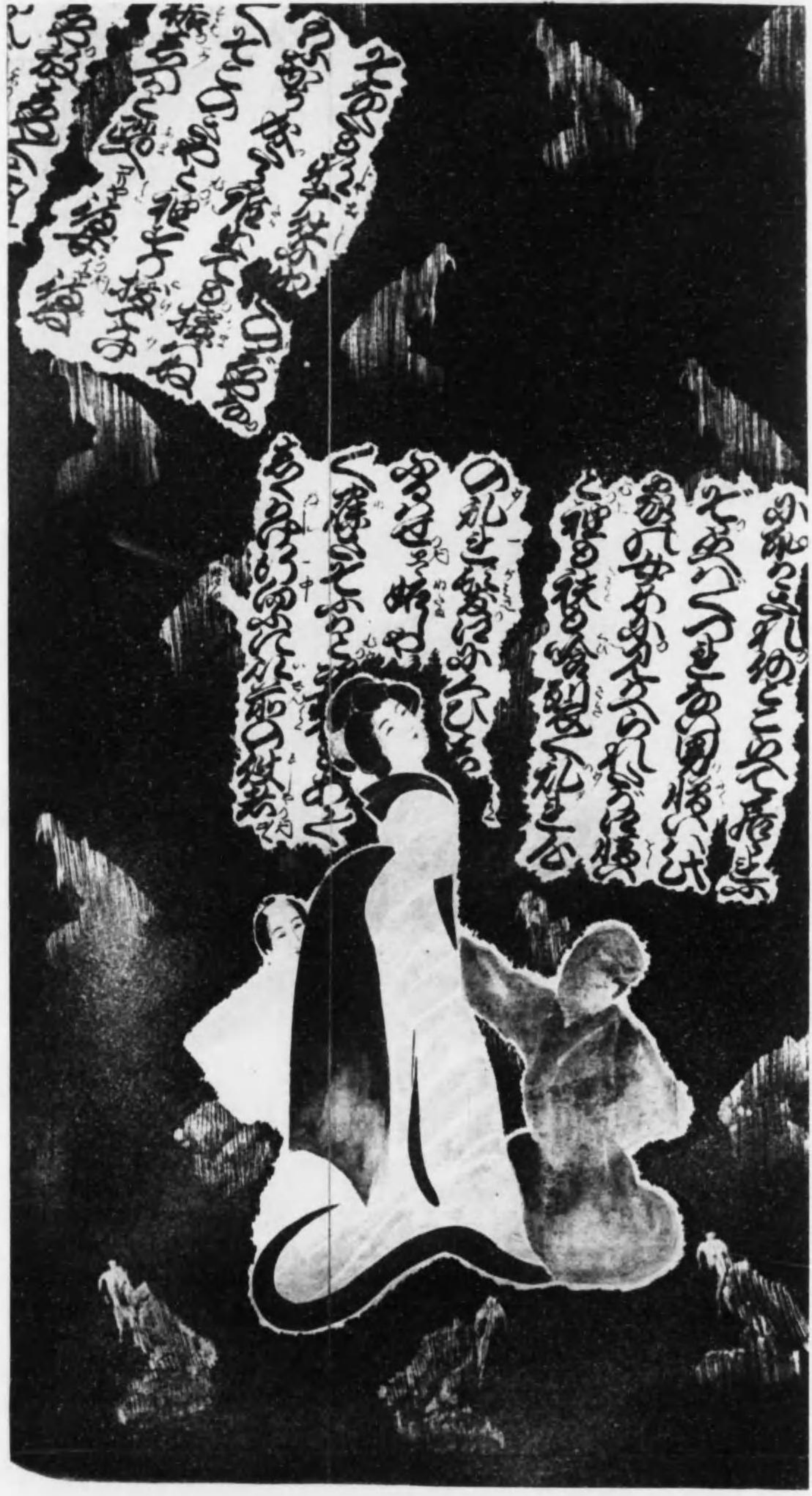
京都市小川下立賣南入
佛教藝術院出版部



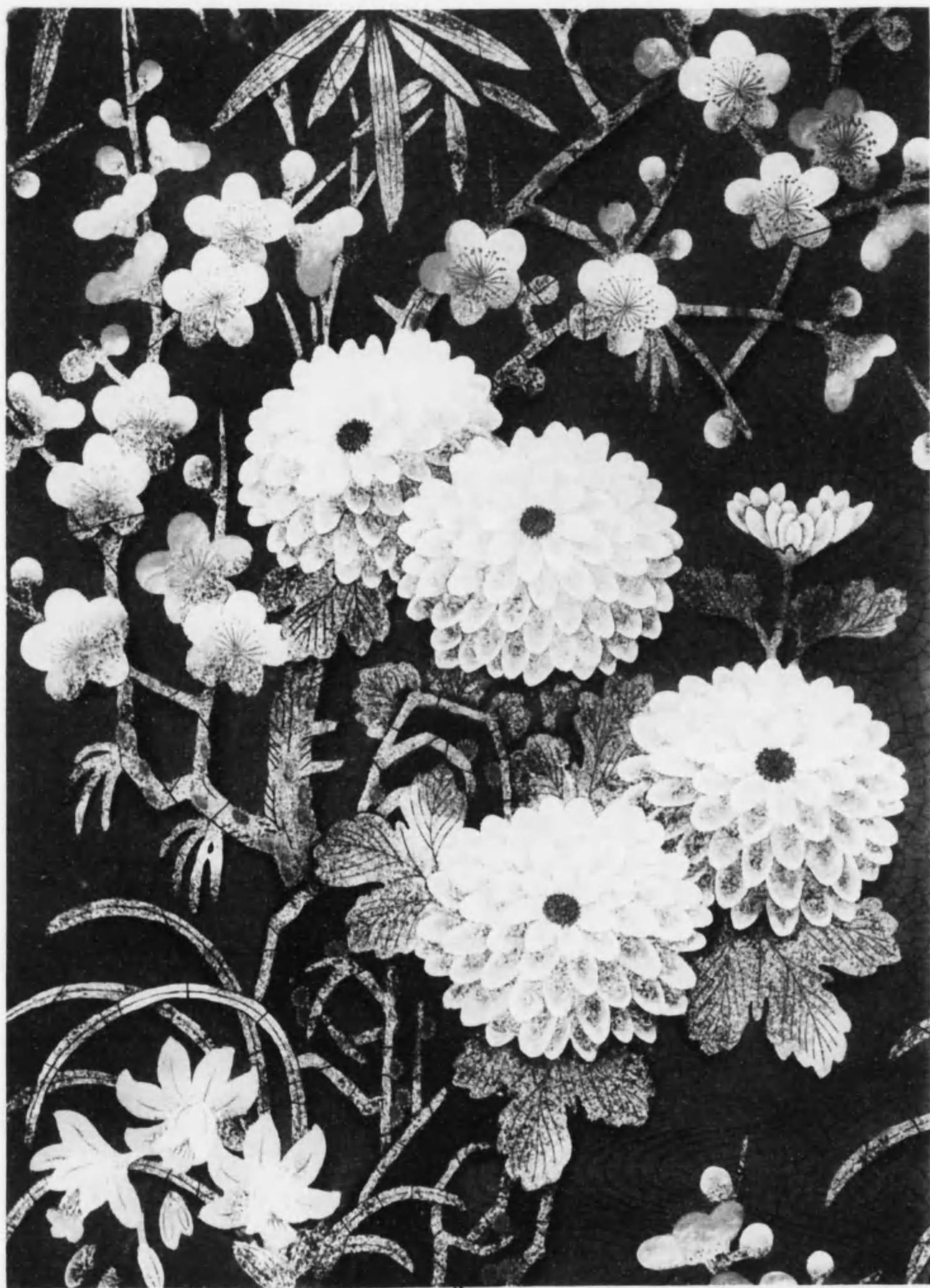


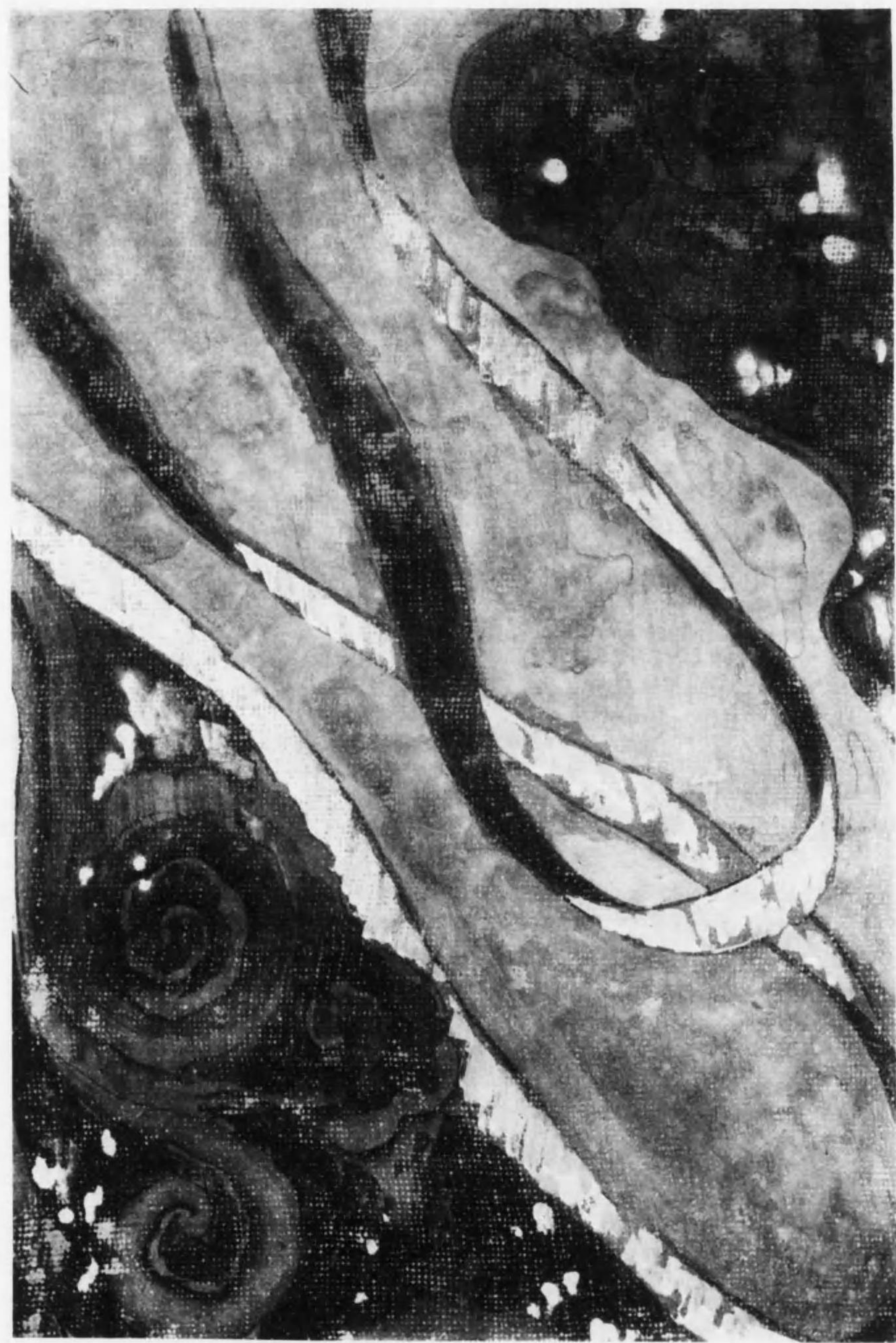
















大正十一年十一月十日印刷
大正十一年十一月十五日發行
實價金參圓八拾錢
京都府油小路下立賣南入
編輯發行 中野彌吾
京都府油小路下立賣南入
印刷所 佛教藝術院製版部
發行所 京都府油小路下立賣南入
佛教藝術院出版部
總發行所 京都府油小路下立賣南入
電話口座六五二〇六番

終